

東日本大震災支援ツアー報告

～犠牲者を悼み、あの日の惨禍と教訓を胸に～

2019年12月22日、「東日本大震災支援ツアー」をメンバー・ボランティアなど23名の参加をえて開催しました。当日は、陸前高田市に昨年9月にオープンした「東日本大震災津波伝承館」を見学し、津波の恐ろしさ再認識し「津波てんでんこ」の意味を改めて考えさせられました。その後、大槌町に移動し、大槌町文化センターで開催された「大槌キッズコーラス♪あぐどまめコンサート」を鑑賞・声援を送りました。



解説員さんから、震災の事実と教訓、復興への思いを丁寧にお話ししていただきました。展示資料の説明、田野畑村の無残な消防団の被災車両を見て、津波の猛威に震える思いでした。

津波襲来時、沿岸の市の状況、亡き人への思いを届ける映画『漂流post』の鑑賞など涙をこらえつつ有意義なひとときとなりました。



いわてTSUNAMIメモリアルは、「命を守り、海と大地と共に生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～」を展示テーマに、奇跡の一本松をはじめとする周辺の震災伝承施設とともに震災の事実と教訓を伝承し、震災を乗り越えて進む姿を、支援への感謝と共に発信する。同館は、国営追悼・祈念施設、道の駅高田松原と一体で、現在整備が進む高田松原津波復興祈念公園内に位置している。



第11回大槌キッズコーラス♪あぐどまめコンサート鑑賞



東日本大震災津波伝承館視察後、大槌町文化センター大槌町おしゃっちで開催の大槌キッズコーラス♪あぐどまめ・第11回定期コンサートを鑑賞、声援を送りました。

震災から5年間、盛岡市キャラホール少年少女合唱団との交流をユニセフが支援し、その後も岩手県ユニセフ協会は毎年大槌の定期コンサートに出かけています。

童謡・こどもの歌、音楽ものがたり『11ぴきのねこ』、愛唱歌ディズニーの名曲からどこまでも～モアナと伝説の海～他、楽しい曲に魅了されました。

あぐどまめのみなさん、児玉先生、佐々木先生、ありがとうございました。

支援ツアーに参加して

今回の支援ツアーへ花巻友の会からは林会長夫妻はじめ七名の参加だった。

まずは高田松原復興記念公園の中の津波伝承館へ。立派な建物の中に膨大な資料が詰め込まれており、短時間でどのように…と思っていたが、要領よく説明しながら案内をして頂き大助かり。津波が襲ってくる映像もあり、私たちは目をそらしたり涙を流したり、あの美しい海も牙をむく事がある「津波てんでんこ」の意味を考えさせられた。

それぞれ昼食をとった後は高速道をひた走り大槌「おしゃっち」へ。一年ぶりの「あぐどまめ」コンサート。すばらしい成長ぶりに感動！特にミュージカル「11ぴきのねこ」は構成も良く楽しませてもらった。子ども達へのXmasプレゼント…今でも各地から支援がある事を知り、私たちもおすそ分けを頂き、温かい気持ちで岐路についた。ユニセフという組織の中で、ささやかな支援活動が続けられて来た事に、改めて感謝したいと思う。

岩手県ユニセフ協会花巻友の会 瀬川 玲子

岩手県ユニセフ協会活動報告

2019年度 ハンド・イン・ハンド 街頭募金活動

今年で41回目となる「2019ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン」を、12月7日に盛岡市内、12月14日に花巻市内、12月15日に宮古市内で取り組みました。この募金活動に、各市内13校の中・高・大学生を含む・一般のボランティアなど、372人が参加し、街頭募金を呼び掛けた結果、募金額：66万9,928円となりました。
ご協力いただきました企業・団体・個人のみなさま、ありがとうございました。

5歳の誕生日を迎えることなく命を落とす子ども、年間530万人

すべての子どもに
生きるチャンスを

Paddington Bear



PADDINGTON BEAR™
© Paddington and Company Ltd 2019
Paddington Bear™, Paddington™ and PP™
are trademarks of Paddington and Company Ltd
Licensed by © Copyright Asia
www.paddington.com
www.paddington-bear.jp



©UNICEF/UN061432/Dejongh

5歳未満児の死亡数は1990年の年間1,260万人から2019年は530万人に減少しました。また同時期に、5歳から14歳の間に死亡する子どもの数は年間170万人から100万人以下に減少しました。
しかし、現在も1年間に530万人もの幼い子どもたちが、肺炎、下痢、はしかなど簡単に予防できる病気などのためにその命を失っています。いずれも先進国では死に直結しない病気ですが、世界ではこれら3つの病気だけで、2017年の乳幼児死亡数の約3割に相当する150万人以上が犠牲になっています。どの病気にも治療薬やワクチンなどの簡単な対処法があるにもかかわらず、何百万人もの子どもがこうした医療ケアにアクセスできずにいるのです。
今この瞬間も病気と闘う多くの子どもたちが、命を守る支援を必要としています。

参加した学生ボランティアから「他の人のことを考えてくださる人たちの優しさを感じることができてとてもよかった」「100円でワクチンや浄水剤など多くのものに変えることができると知り、素晴らしいと思った。貧しい子どもたちの生活のつらさを実感した。子どもたちに生きるチャンスを与えられるよう、今後も積極的にユニセフに協力していきたい」などの感想が寄せられました。

- 盛岡** カワトク、ホットライン肴町、MOSSビル、クロステラス、アネックスカワトク ベルフ公園
- 花巻** アルテマルカン桜台、ピフレ花巻店、ユープ花巻あうる、イトーヨーカ堂花巻店
- 宮古** マリンコープDORA、ベルフ西町

参加校 13校

- | | |
|------------|------------|
| 宮古市立宮古西中学校 | 花巻市立花巻中学校 |
| 宮古市立第一中学校 | 盛岡市立黒石野中学校 |
| 宮古市立第二中学校 | 盛岡市立公園中学校 |
| 宮古市立河南中学校 | 盛岡大学 |
| 県立花巻北高校 | 県立盛岡北高校 |
| 県立花北青雲高校 | 盛岡中央高校 |
| 花巻市立南城中学校 | |



Hand in Hand



▲募金活動の前に紙芝居でユニセフを学びました



▲盛岡市ホットライン肴町・カワトク・アネックスカワトク・MOSSビル



- ◆募金活動を行って「他の人」のことを考えてくださる人たちの優しさを感じることができてとても楽しかったです。また地域の人たちと少しでも交流することができる、よい機会となったので、このような活動に積極的に取り組みたいです。(盛岡 中学女子)
- ◆はじめてこのような活動をして、私たちの活動が実際に困っている人たちに繋がっているという実感を持つことができ達成感を感じることができました。また、たくさんの善意にふられてとても嬉しくなりました。(盛岡 中学女子)
- ◆今回の活動をして、たった1円だとしても役に立つということが分かった。僕たち中学生ができることなんてないと思っていたし、できなくても役に立たないだろうと思っていた。でも、100円あれば役に立つことはたくさんあると知った。これからはできることはできるだけやって、世界の子どもたちの役に立ちたい!! (盛岡 中学男子)
- ◆思っていたよりも募金に協力していただける方が多く、盛岡の方々の優しさが強く感じられました。(盛岡 大学男子)
- ◆現在でも多くの子どもが5歳まで生きられないことを知って、少しでも貢献できたことに嬉しく思います。現状を知ることができたので、ほかの活動でも活かしていきたいと思います。(盛岡 高校女子)
- ◆ユニセフの募金活動を通して、ボランティアの大切さやユニセフについて知識を深めることができました。この活動を機にボランティア活動に参加していきたい。(宮古 中学男子)
- ◆募金活動を通して命の大切さや宮古の人の優しさを感じることができました。集めたお金が世界の困っている子どもの役に立てばうれしいです。(ベルフ西町)

参加ボランティアの感想



▲盛岡市立上田小学校出前講座
2019年11月13日 5年生2クラス



▲金ヶ崎町立三ヶ尻小学校出前講座
2019年12月2日 5年生



▲岩手大学教育学部社会科教育科
2020年1月22日

子どもの権利条約、ユニセフについて知っていたが、細かく触れて学ぶことができ、学んだことを生かして教員として歩んでいきたい。

ユニセフ募金贈呈



2019年12月11日



2019年12月17日

世界の子どもたちと
ユニセフの活動を学ぶ
ユニセフ出前講座

▲北上市立南小学校児童会

▲北上市立飯豊小学校児童会

世界の子どもたちは

シリア北西部 続く、学校や病院への攻撃 2020年こそ、シリアに平和を

ユニセフ事務局長声明



▲イドリブ県・タフタナズの国内避難民キャンプで、給水タンクから汲んだ水を運ぶ子どもたち。(2019年9月撮影)

新年にあたり、私たちはシリアの何百万人もの子どもたちに代わって呼びかけます。保健施設、学校、給水システムなど、子どもたちと子どもたちに提供するサービスに対するすべての攻撃を止めること。シリア北西部での敵対行為を直ちに停止し、何よりもまず子どもを優先して保護し、平和的な合意に向けた努力を再開し、シリアでの紛争を終わらせること。

元旦に生まれる赤ちゃん 世界で39万人、 日本は2,500人

5歳未満児死亡の約半数が、 新生児死亡



▲未熟児で生まれ、新生児集中治療室で治療を受けるイエメンの赤ちゃん。(2019年10月撮影)

1	インド	6万7,385人
2	中国	4万6,299人
3	ナイジェリア	2万6,039人
4	パキスタン	1万6,787人
5	インドネシア	1万3,020人
6	アメリカ	1万452人

新型肺炎 ユニセフ、中国に 支援物資を輸送

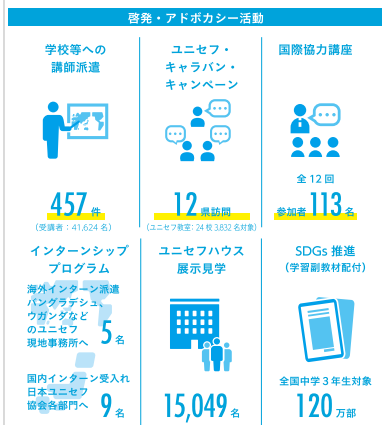
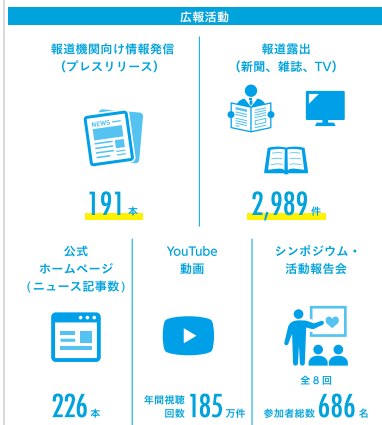
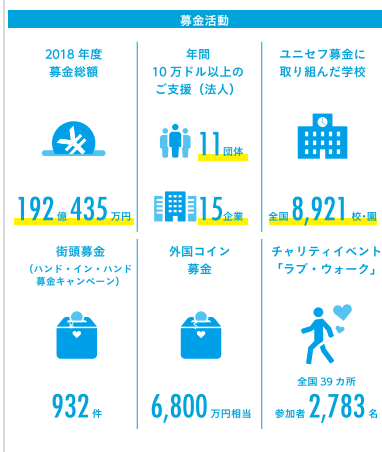
マスクや防護服など、 政府の緊急対応を支援



©UNICEF/UNI281221_Hikselbrandt

ユニセフ（国連児童基金）は、新型コロナウイルスによる肺炎が広がっている問題に対する中国政府の対応を支援するために、マスクや防護服など支援物資の輸送を行いました。

数字で見る国内事業の成果（ハイライト）



みなさまが支えたユニセフの活動

国内 18.4%
の活動へ

日本国内のユニセフ活動を支える

より多くの支援を得るための
募金活動

子どもたちの問題と
ユニセフの活動を広める
広報活動

子どもの権利に関する啓発と
課題解決に取り組む
啓発・アドボカシー活動

みなさまが支えた ユニセフの活動

2018年度に日本ユニセフ協会がみなさまからお預かりした募金の総額は、

192億435万円。

その81.6%（156億8,000万円）はユニセフ本部を通じて世界の支援プログラムに、18.4%は日本国内でユニセフや子どもの問題への理解や支援を広げる活動、日本の子どもたちの権利課題の解決に向けたアドボカシー活動に充てられました。



©UNICEF/UN0271788/Kelly

世界 81.6%
の子どもたちへ

世界のユニセフの活動を支える

156億8,000万円

抛出の内訳

通常
抛出

82%
日本から世界へ、128億9,769万円

用途を限定することなく、ニーズに応じて様々なプログラムに用いることができる通常予算への抛出。厳しい状況にありながら、世界の注目を浴びることのない国々の子どもたちへの支援を可能にし、中長期的な支援を支えます。

指定
抛出

11%
日本から30カ国以上へ、17億2,313万円

水と衛生、教育、HIV/エイズなど特定の活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定のプロジェクトを複数年にわたってご支援いただく指定募金からの抛出。

緊急
抛出

日本から10カ国へ、10億5,918万円

絶え間ない紛争や自然災害、感染症の流行、食料危機など、緊急に支援が必要な深刻な危機に対処するためにご支援いただいた緊急募金からの抛出。

長谷部誠大使 ギリシャ難民キャンプ訪問

『すべての子どもに、夢を』
～ for every child, a dream ~

入場無料



© 日本ユニセフ協会/2018/satomi.matsui

ユニセフパネル展

盛岡会場
2020年
日時 **3月12日(木) ▶ 15日(日)**
10:00 ~ 17:00 (最終日 15:00まで)
会場 盛岡市 プラザおでつ 2階 ギャラリー

花巻会場
2020年
日時 **3月18日(水) ▶ 21日(土)**
10:00 ~ 17:00 (最終日 15:00まで)
会場 花巻市 妙圓寺

2015年4月に始まった「欧州難民危機」。紛争や暴力から逃れ、安全な場所を求める多くの人々が、中東やアフリカからヨーロッパに殺到しました。日本ユニセフ協会大使として訪問先に、ユニセフ支援の最前線、ギリシャ最大の難民キャンプを訪問し、笑顔の陰にある子どもたちの悲しみに触れた長谷部選手の想いと子どもたちの姿を報告します。

ユニセフ募金につながる
・外国コイン・書き損じハガキ・古切手受け付け
・カレンダー募金
会場内ユニセフボランティア活動
・古切手のセービング

日本ユニセフ協会賛助会員として、 世界の子どもたちを応援してください。

○ 賛助会員ってなあに？



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

○ 賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会費	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口	5,000円	入会月~1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口	2,000円	入会月~1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口	100,000円	入会月~1年間

※一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

※賛助会員は寄付控除の対象になります。

賛助会員を希望される方は県ユニセフ協会まで。

あ・と・が・き

○東日本大震災からまもなく9年。日本ユニセフ協会が中心となって、海外現地事務所から駆け付けたユニセフ日本人職員と一緒に、緊急・復興支援に取り組んだ。unicef news vol.264 世界で働く日本人職員faceに掲載されている福島県出身の水野谷さん。現在のご活躍ぶりがとてもうれしい。

～途上国の子どもたちに想いをよせて～

第10回 ユニセフラブウォーク in いわて

思い思いのペースで歩いた汗が、ユニセフを通じて開発途上国の子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。



「第10回ユニセフ・ラブウォークinいわて」開催要領

開催日 **2020年 5月17日(日)**

会場 **盛岡城跡公園広場** ※スタート・ゴール/5km・10km

受付 **8:30～** 出発式 **9:15**

スタート **10km...9:30 5km...9:45** 12時半ごろまでにゴール・解散

参加定員 **300名**

参加費 **大人...500円 子ども(18歳未満)...200円**
(共にユニセフ募金、保険の費用を含む)

共催 **盛岡市ウォーキング協会、岩手県ウォーキング協会**

お申し込みは **岩手県ユニセフ協会まで TEL:019-687-4460**

ユニセフのつどい 安田菜津紀さん 講演会



世界の子どもたちと向き合っ
てシリアの子どもたちは今...
東日本大震災被災地に寄りそって

1987年神奈川県生まれ。
NPO法人Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) 所属フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に「写真で伝える仕事-世界の子どもたちと向き合っ-」(日本写真企画)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。
著書「君とまた、あの場所へ シリア難民の明日」ほか 震災以降岩手の自然を取材「それでも、海へ」「しあわせの牛乳」など

日時 **2020年 6月6日(土) 13:30 ~16:00**

会場 **岩手教育会館 多目的ホール**

定員/300名 入場無料/入場整理券発行
お申込み受付/4月10日から

○エル・システマジャパンは、2020年4月4日、福島県相馬市、岩手県大槌町、長野県駒ヶ根市、東京のホワイトハンドコーラスの子どもたちと、世界9か国350人の、生まれた国も育った文化、障害の有無も様々な子どもたちが、多様な人々の共生と平和を願うベートーヴェンの「第九」を奏でる「世界子ども音楽祭2020」を開催するという。(一社)エル・システマジャパンの代表理事菊川穂氏は、2011年より東日本大震災支援本部チーフコーディネーターとして岩手県にも何度も足を運んだ。(事務局)